

大学生のQOLに関連する要因の検討 (1)

若松 拓也*・内山 聡**・茂原 直樹***・大木 桃代****

Factors which Contribute to the Quality of Life in University Students (1)

Wakamatsu Takuya, Uchiyama Satoshi, Mohara Naoki & Ohki Momoyo

1. はじめに

QOL (Quality of Life) とは「生命の質」、「人生の質」、「生活の質」などと訳される概念である。もともとは、1960年代後半に社会経済的な指標として用いられた言葉であるが、現在では、社会学、医学、福祉学、心理学などさまざまな分野において、このQOLという言葉が使われている。しかし、QOLという言葉には必ずしも決まった概念があるわけではなく、その定義は研究者によって様々である。例えばWHO/QOLでは、QOLを「一個人が生活する文化や価値観のなかで、目標や期待、基準、関心に関連した自分自身の人生の状況に対する認識」と定義している。(田崎・中根,1997) また、永田・姫野・岡本・伊東・釜野・金子・奥秋 (1989) は、「よく食べられ、よく眠れ、排泄 (主に排便・排尿) に支障がなく、疼痛がなく、たとえあっても苦痛にはならず、心理的に安定し、職場や家庭・学校といった社会環境において、十分その役割を果たすことができ、生きがいをもった日々を送れること」と、身体・心理・社会・倫理 (実存) の医療モデルに基づいてQOLを定義している。

QOLには客観的に測定される部分と主観的に評定される部分がある。柴田 (1996) は、これまでのQOL研究について、社会政策的、医学的、社会心理学的、老年学的の4つの流れのなかで進められてきたと述べている。医学的領域では、健康 (病気) との関係性を強く意識し、治療の効果を測定することを目的に、主に事実として第三者による観察が可能な要素によりQOLを捉えようとしている。一方、老年学および社会心理学領域では、健康との関係性は意識しつつも、日常生活全体や人生に対する、本人にしか分かりえない主観的な要素によりQOLを捉えようとしている。前者は主に健康関連QOLと呼ばれ、後者は主観的QOLとよばれる。

また、医療場面においては、延命治療行為の際にQOLが問題としてあがっている。今井 (1999) によると、医療が長らく延命を基本としてきた中で、無理な延命の意味が問われるよう

* わかまつ たくや 文教大学人間科学部

** うちやま さとし 文教大学人間科学部

*** もはら なおき 文教大学人間科学部

**** おおき ももよ 文教大学人間科学部

になった。また、医療の内容について患者の自己決定権が尊重されるようになり、医療の内容の多様化や、延命治療の相対化につながると指摘している。ターミナルケアやパリアティブケアという考え方も、このような風潮から現れてきたものであろう。

以上のように、今までのQOL研究は、高齢者や肉体的にハンディのある人々、疾患を抱えた患者のQOLに焦点を当てたものが多かった。「生活全体の質」を測るものというよりは、「身体能力の質」を測るものとして、QOLという概念が使われてきたように思われる。

しかし、WHO/QOLの定義に則るならば、高齢者や疾患を抱えた患者に限定されたQOLの測定尺度では、「生命の質」「人生の質」を問うことに限界があるのではないだろうか。全体的な生活、生命、人生について議論するならば、身体的な要素以外に、心理的、社会的、環境的側面にも注目しなければならない。このような従来のQOL研究に限界があるのならば、特にそのような問題を抱えているわけではない、いわゆる「一般の」人々のQOLに関しても研究を進める必要がある。

そこで本研究では、いわゆる「一般の人々」に焦点を当て、特に今回は大学生を対象にしたQOL研究を行う。大学生は、年齢も若く、身体的には特に問題を抱えていない比較的健康な人が多く存在すると考えられ、従来のQOL研究ではあまり焦点の当てられなかった対象でもある。しかし、学生生活を送る上で、交友関係、学業などの日常生活に関するものから、成人、卒業、就職などのさまざまなライフイベントを迎える時期であり、心理的、社会的に様々な困難、葛藤を抱えていると考えられる。また鶴田（2002）は、大学生を理解する際、その心理的意味を理解するだけでは、問題の解決に結びつかないことも多く、学生の現実生活を支える必要性を示唆している。

さらに、Erikson（1959 小此木啓吾訳 1973）の発達段階に則るならば、大学生は「青年期」の後期にあたる年代である。Eriksonは、人の生涯を8つの心理・社会的発達段階に分けた上で、それぞれの段階は特有の課題と危機によって特色付けられており、その課題と危機の解決のあり方がその人のその後の心理・社会的段階の対処の仕方に影響を与えたとした。発達段階の中で最も重要とされる青年期の基本的な心理・社会的危機は、アイデンティティ対アイデンティティ拡散である。アイデンティティは、現にいま存在している自分自身と、今後の人生計画の中で目指していく目標としての自分自身の両者によって構成されていくものであるとされている。

したがって、人生全体を通してのQOLを構成する要素を把握することが、大学生の時期における価値観、人生観を調査、分析することにつながり、大学生の生活の意味を捉えることにつながると思われる。

2. 目的

本研究では、大学生に特徴的なQOLに関連する要因を明らかにすることを第1の目的とする。また、領域によっては、QOLに関連する要因として、男女に考え方や感じ方の違いがある可能性がある。よって性差を検討することにより、その違いを明らかにすることを第2の目的とする。

3. 方法

調査協力者：関東の2つの私立大学に通う大学生265名（男性85名、女性180名）を対象とした。

手続き：大学の授業時間内に各教室において質問紙を配布した。回収は調査者に直接手渡すか、学内設置の回収ボックスを用いた。調査は匿名で行われることから、回答すること自体が同意の意思表示とみなされるものとした。また、匿名であるため、通常の同意文書の作成は不可能であることから、同意文書は用いないこととした。

質問紙：大木・山内・織田（1998）を参考に選定された20領域（健康、自信、価値観、財産、仕事（アルバイト）、仕事（アルバイト）仲間、遊び、学習、創造性、援助、愛情、友人、子ども、両親・兄弟、親戚、住居、隣近所、地域、国家、宗教）、さらに大学生に特徴的であると思われる4領域（恋人・配偶者、自立、外見、インターネット）を付け加えた計24領域から構成されていた。24の生活領域について、それぞれの領域が現在の自分の幸福にどの程度寄与しているかという「現在の重要度」と、その領域に関する自分の欲求や目的、願望がどの程度満たされているかという「現在の満足度」、またその領域が将来の自分の幸福にどの程度寄与すると考えられるかという「将来の重要度」を問う計72項目から成っていた。現在・将来の重要度は「重要でない：0」～「非常に重要：2」の3段階で、満足度は「非常に不満：-3」～「非常に満足：3」の7段階で回答を求めた（資料1）。なお、QOLを示す指標として、各領域の現在の重要度と満足度を掛け合わせた得点（重み付け満足度）と、それらを合計した得点（QOL得点）を用いた。調査時期：2006年11月から12月であった。

4. 結果

(1) 現在の重要度

24の生活領域に対する現在の重要度は「友人」が最も高く、「健康」「遊び」「愛情」「住居」「自信」「両親・兄弟」が続いていた。逆に現在の重要度が低かった領域は、「宗教」「隣近所」「親戚」「子ども」であった。

また、男女間で、各領域の平均値の t 検定を行った。その結果、「創造性」（ $t(260) = 2.96, p < .01$ ）の領域において女性よりも男性の方が、「両親・兄弟」（ $t(60) = 4.10, p < .001$ ）「外見」（ $t(261) = 3.36, p < .01$ ）の領域において男性よりも女性の方が現在の重要度が有意に高かった（表1）。

(2) 現在の満足度

24の生活領域に対する現在の満足度は「友人」が最も高く、「両親・兄弟」「住居」「仕事仲間」が続いていた。逆に現在の満足度が低かった領域は「外見」「自信」「国家」「自立」「学習」であった。

また、男女間で、各領域の平均値の t 検定を行った。その結果、「自信」（ $t(263) = 3.11, p < .01$ ）の領域において、女性よりも男性の方が、「両親・兄弟」（ $t(261) = 2.33, p < .05$ ）「住居」（ $t(262) = 2.91, p < .01$ ）「子ども」（ $t(176.34) = 3.74, p < .001$ ）「隣近所」（ $t(261) = 2.19, p < .05$ ）の領域において、男性よりも女性の方が現在の満足度が有意に高かった。また、「国家」（ $t(129.63) = 1.82, p < .10$ ）の領域において男性よりも女性の方が有意に高い傾向が見られた（表2）。

(3) 将来の重要度

24の生活領域に対する将来の重要度は「友人」が最も高く、「健康」「自立」「愛情」「自信」「住居」「遊び」「恋人・配偶者」が続いていた。逆に将来の重要度が低かった領域は「宗教」「親

表1. 大学生の男女別現在の重要度の平均値・SDとt検定結果

領域	全体	男性	女性	t値	有意差
	平均 (SD)	平均 (SD)	平均 (SD)		
友人	1.72 (0.51)	1.66 (0.57)	1.75 (0.47)	1.22	
健康	1.65 (0.55)	1.62 (0.53)	1.66 (0.56)	0.51	
遊び	1.64 (0.53)	1.61 (0.60)	1.66 (0.50)	0.58	
愛情	1.58 (0.61)	1.52 (0.61)	1.60 (0.60)	0.91	
住居	1.54 (0.58)	1.50 (0.57)	1.56 (0.59)	0.75	
自信	1.52 (0.57)	1.46 (0.63)	1.54 (0.54)	1.08	
両親・兄弟	1.49 (0.60)	1.27 (0.65)	1.59 (0.56)	4.10	*** 男性<女性
学習	1.48 (0.57)	1.46 (0.61)	1.49 (0.55)	0.36	
財産	1.46 (0.59)	1.49 (0.57)	1.44 (0.60)	0.69	
インターネット	1.41 (0.63)	1.49 (0.61)	1.37 (0.64)	1.37	
価値観	1.40 (0.65)	1.47 (0.65)	1.37 (0.64)	1.16	
自立	1.40 (0.67)	1.40 (0.64)	1.40 (0.68)	0.01	
外見	1.30 (0.65)	1.11 (0.66)	1.39 (0.63)	3.36	** 男性<女性
恋人・配偶者	1.30 (0.73)	1.27 (0.73)	1.31 (0.74)	0.49	
創造性	1.25 (0.72)	1.44 (0.72)	1.16 (0.71)	2.96	** 男性>女性
仕事	1.17 (0.69)	1.12 (0.70)	1.19 (0.68)	0.82	
仕事仲間	1.12 (0.73)	1.16 (0.77)	1.10 (0.71)	0.66	
国家	0.98 (0.72)	1.07 (0.76)	0.94 (0.69)	1.35	
地域	0.97 (0.71)	0.94 (0.77)	0.98 (0.68)	0.38	
援助	0.92 (0.72)	0.91 (0.74)	0.93 (0.71)	0.13	
子ども	0.91 (0.82)	0.94 (0.86)	0.90 (0.81)	0.37	
親戚	0.73 (0.70)	0.67 (0.67)	0.77 (0.71)	1.07	
隣近所	0.59 (0.66)	0.65 (0.71)	0.57 (0.64)	0.56	
宗教	0.17 (0.45)	0.20 (0.49)	0.16 (0.44)	0.77	

(*** $p<.001$, ** $p<.01$)

戚」「隣近所」であった。

また、男女間で、各領域の平均値のt検定を行った。その結果、「学習」($t(167.32) = 2.36, p<.05$)「インターネット」($t(261) = 2.94, p<.01$)「創造性」($t(260) = 2.62, p<.001$)「宗教」($t(125.58) = 2.39, p<.05$)の領域において、女性よりも男性の方が、「友人」($t(117.19) = 2.27, p<.05$)「愛情」($t(127.08) = 3.12, p<.01$)「両親・兄弟」($t(122.46) = 5.25, p<.001$)「外見」($t(161.67) = 3.61, p<.001$)の領域において、男性よりも女性の方が将来の重要度が有意に高かった。また、「健康」($t(127.41) = 1.91, p<.10$)の領域において、男性よりも女性の方が有意に高い傾向が見られた(表3)。

現在の重要度と将来の重要度との各領域の平均値のt検定を行った結果、24領域中21領域で有意差が認められ、将来の重要度の方が高かった($p<.05$)。特に、「仕事(アルバイト)」「恋人・配偶者」「子ども」「隣近所」「自立」などの領域で大きな差が認められた。

表2. 大学生の男女別現在の満足度の平均値・SDとt検定結果

領域	全体	男性	女性	t値	有意差
	平均 (SD)	平均 (SD)	平均 (SD)		
友人	1.35 (1.46)	1.21 (1.55)	1.42 (1.42)	1.07	
両親・兄弟	1.10 (1.60)	0.76 (1.60)	1.25 (1.58)	2.33	* 男性<女性
住居	0.87 (1.56)	0.47 (1.63)	1.06 (1.50)	2.91	** 男性<女性
仕事仲間	0.63 (1.68)	0.75 (1.70)	0.56 (1.69)	0.05	
インターネット	0.54 (1.50)	0.55 (1.68)	0.54 (1.42)	0.85	
価値観	0.51 (1.32)	0.61 (1.35)	0.46 (1.31)	0.87	
親戚	0.46 (1.31)	0.58 (1.15)	0.40 (1.38)	1.05	
愛情	0.38 (1.78)	0.15 (1.69)	0.49 (1.81)	1.46	
遊び	0.36 (1.58)	0.35 (1.44)	0.36 (1.65)	0.04	
子ども	0.31 (1.28)	-0.10 (1.17)	0.50 (1.30)	3.74	*** 男性<女性
宗教	0.22 (1.09)	0.12 (1.17)	0.26 (1.06)	0.99	
地域	0.17 (1.50)	0.17 (1.59)	0.17 (1.45)	0.03	
援助	0.05 (1.14)	0.02 (1.08)	0.06 (1.17)	0.21	
隣近所	0.02 (1.33)	-0.24 (1.41)	0.15 (1.28)	2.19	* 男性<女性
恋人・配偶者	-0.02 (1.90)	-0.22 (1.84)	0.07 (1.92)	1.15	
健康	-0.04 (1.79)	-0.29 (1.75)	0.08 (1.81)	1.58	
仕事	-0.30 (1.72)	-0.28 (1.78)	-0.30 (1.70)	0.08	
創造性	-0.31 (1.47)	-0.34 (1.61)	-0.29 (1.40)	0.23	
財産	-0.42 (1.66)	-0.65 (1.70)	-0.31 (1.64)	1.54	
学習	-0.45 (1.52)	-0.40 (1.67)	-0.47 (1.45)	0.33	
自立	-0.64 (1.55)	-0.73 (1.55)	-0.59 (1.55)	0.69	
国家	-0.71 (1.37)	-0.95 (1.61)	-0.59 (1.23)	1.82	+ 男性<女性
自信	-0.76 (1.67)	-0.31 (1.62)	-0.98 (1.65)	3.11	** 男性>女性
外見	-0.98 (1.48)	-0.80 (1.45)	-1.07 (1.48)	1.41	

(*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.10$)

(4) 重み付け満足度およびQOL得点

24の生活領域に対する重み付け満足度は、「友人」が最も高く、「両親・兄弟」「住居」「仕事仲間」が続いていた。逆に重み付け満足度が低かったものは「外見」「自信」「自立」「国家」「財産」「学習」であった。

また、男女間で、各領域の平均値のt検定を行った。その結果、「自信」($t(263)=3.13, p<.01$)「外見」($t(192.01)=3.13, p<.01$)の領域において、女性よりも男性の方が、「両親・兄弟」($t(261)=2.67, p<.01$)「住居」($t(261)=3.11, p<.01$)「子ども」($t(194.31)=3.06, p<.01$)「隣近所」($t(261)=3.01, p<.01$)の領域において、男性よりも女性の方が重み付け満足度が有意に高かった(表4)。

表3. 大学生の男女別将来の重要度の平均値・SDとt検定結果

領域	全体	男性	女性	t値		有意差
	平均 (SD)	平均 (SD)	平均 (SD)			
友人	1.85 (0.37)	1.77 (0.45)	1.89 (0.31)	2.27	*	男性<女性
健康	1.83 (0.42)	1.75 (0.51)	1.87 (0.37)	1.91	+	男性<女性
自立	1.79 (0.42)	1.76 (0.43)	1.81 (0.42)	0.91		
愛情	1.75 (0.47)	1.61 (0.54)	1.82 (0.41)	3.12	**	男性<女性
自信	1.67 (0.52)	1.68 (0.54)	1.76 (0.51)	0.18		
住居	1.63 (0.54)	1.61 (0.54)	1.64 (0.57)	0.49		
遊び	1.61 (0.56)	1.59 (0.54)	1.62 (0.56)	0.45		
恋人・配偶者	1.61 (0.59)	1.58 (0.57)	1.62 (0.60)	0.58		
財産	1.59 (0.54)	1.59 (0.54)	1.59 (0.54)	0.01		
学習	1.57 (0.55)	1.68 (0.54)	1.51 (0.55)	2.36	*	男性>女性
両親・兄弟	1.56 (0.58)	1.26 (0.68)	1.69 (0.48)	5.25	***	男性<女性
子ども	1.53 (0.65)	1.44 (0.75)	1.57 (0.60)	1.39		
仕事	1.51 (0.62)	1.51 (0.70)	1.55 (0.81)	0.47		
価値観	1.49 (0.63)	1.48 (0.65)	1.49 (0.62)	0.08		
インターネット	1.42 (0.62)	1.58 (0.54)	1.35 (0.64)	2.94	**	男性>女性
創造性	1.40 (0.66)	1.55 (0.61)	1.33 (0.67)	2.62	**	男性>女性
仕事仲間	1.37 (0.71)	1.39 (0.73)	1.36 (0.70)	0.35		
外見	1.32 (0.64)	1.12 (0.63)	1.42 (0.63)	3.61	***	男性<女性
国家	1.30 (0.66)	1.37 (0.71)	1.27 (0.63)	1.05		
地域	1.24 (0.65)	1.18 (0.64)	1.27 (0.65)	1.11		
援助	1.20 (0.69)	1.21 (0.70)	1.20 (0.69)	0.12		
隣近所	0.98 (0.69)	1.01 (0.74)	0.97 (0.67)	0.50		
親戚	0.92 (0.67)	0.85 (0.63)	0.96 (0.69)	1.25		
宗教	0.26 (0.55)	0.39 (0.66)	0.20 (0.48)	2.39	*	男性>女性

(*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.10$)

5. 考察

(1) 現在の重要度

現在の重要度の結果は、社会人を対象とした大木他 (1998)、および大学生を対象とした大木 (1999) と、順序はやや異なるもののほぼ同じ結果であり、日常生活において重要視される領域は年齢や職業、立場、時代によってほとんど差がないことが明らかになった。また、「友人」「遊び」「愛情」「両親・兄弟」などの親密な対人関係や、仲間、外集団との関わりに関する領域が高い重要度を示した。この傾向はEriksonが青年期に中心となる環境として挙げたものとも一致する。ただし、全体を通して最も高い重要度を示した領域が「友人」であったという結果は、社会人対象の大木他 (1998) の結果とは若干異なり、さらに、大学生対象の大木 (1998) の結果と同

表4. 大学生の男女別重み付け満足度およびQOL得点の平均値・SDとt検定結果

領域	全体	男性	女性	t値	有意差
	平均 (SD)	平均 (SD)	平均 (SD)		
友人	2.62 (2.62)	2.35 (2.81)	2.75 (2.53)	1.12	
両親・兄弟	2.00 (2.76)	1.35 (2.65)	2.31 (2.77)	2.67	** 男性<女性
住居	1.35 (2.68)	0.60 (2.66)	1.69 (2.62)	3.11	** 男性<女性
仕事仲間	1.16 (2.43)	1.35 (2.65)	1.07 (2.32)	0.89	
インターネット	0.98 (2.42)	1.23 (2.55)	0.86 (2.36)	1.11	
価値観	0.87 (2.20)	1.18 (2.17)	0.73 (2.20)	1.56	
愛情	0.76 (3.17)	0.46 (2.99)	0.90 (3.25)	1.04	
親戚	0.71 (1.63)	0.65 (1.19)	0.75 (1.80)	0.50	
遊び	0.65 (2.86)	0.71 (2.64)	0.63 (2.96)	0.19	
恋人・配偶者	0.32 (3.12)	0.17 (2.97)	0.39 (3.19)	0.54	
子ども	0.30 (1.80)	-0.15 (1.53)	0.51 (1.88)	3.06	** 男性<女性
地域	0.30 (1.96)	0.13 (2.09)	0.37 (2.09)	0.94	
援助	0.17 (1.69)	0.13 (1.60)	0.19 (1.73)	0.23	
宗教	0.15 (0.74)	0.20 (0.77)	0.13 (0.72)	0.76	
隣近所	0.14 (1.48)	-0.25 (1.60)	0.33 (1.39)	3.01	** 男性<女性
健康	-0.11 (3.16)	-0.32 (3.11)	-0.01 (3.18)	0.75	
創造性	-0.31 (2.27)	-0.32 (2.58)	-0.31 (2.12)	0.02	
仕事	-0.40 (2.58)	-0.38 (2.57)	-0.41 (2.59)	0.11	
学習	-0.58 (2.63)	-0.36 (2.85)	-0.69 (2.52)	0.93	
財産	-0.65 (2.76)	-1.05 (2.80)	-0.46 (2.72)	1.61	
国家	-0.74 (2.11)	-1.06 (2.58)	-0.59 (1.85)	1.51	
自立	-1.03 (2.57)	-1.12 (2.48)	-0.99 (2.61)	0.37	
自信	-1.20 (2.87)	-0.41 (2.65)	-1.57 (2.90)	3.13	** 男性>女性
外見	-1.46 (2.36)	-0.85 (2.04)	-1.75 (2.45)	3.13	** 男性>女性
QOL得点	5.78 (25.08)	4.43 (25.17)	6.40 (25.09)	0.58	

(** $p<.01$)

様であった。ここに大学生に特有の生活観を見ることができよう。また、「健康」が「友人」に次ぐ重要度の高さであった。大木他（1998）でも同様に非常に高い重要度を示した領域である。「健康」は、多くのQOL研究でもその項目が挙げられ、心身の健康がQOLを構成する重要な要素であることが本研究においても確認された。

「宗教」「隣近所」「親戚」など、重要度の低い領域は、社会人対象の大木他（1998）の結果と一致している。「宗教」に対する重要度の低さは、大学生に限らず、内閣府（2004）の青年意識調査により指摘されている。青年の宗教に対する意識は年々低下しており、また世界と比べても日本の青年の宗教観は低いと言われている。その傾向が本研究においても確認された。「隣近所」に対する重要度が低いという結果は、大学生は一人暮らしの割合が高い可能性があり、近隣の人との関わりが希薄であるといわれる昨今の社会状況を表すものであるといえよう。同様に、「親

戚」の重要度の低さは、核家族化が進み、親戚の数自体の減少、付き合いの希薄化などの社会情勢をそのまま表す結果であると言えるかもしれない。

社会人対象の大木他（1998）の研究と異なる結果となった領域が「子ども」である。大学生はほとんどが未婚であり、子どもがいる可能性も低い。その結果、現在の重要度が低かったと考えられる。

性差を検討したところ、「創造性」の領域では男性の方が重要度が高かった。この結果は、男性は与えられた課題をこなすだけでなく、より創造的であるべきだというジェンダーステレオタイプが存在する可能性がある。また、「両親・兄弟」が女性の方が重要度が高かったという結果は、平石（2004）の「女子が男子よりも家族との結びつきが強い傾向が示唆されている」を支持している。

(2) 現在の満足度

満足度に関する結果については、社会人対象の大木他（1998）とほぼ一致するものとなり、対人的な領域が高程度、あるいは中程度の満足度を示した。また、大学生対象の大木（1999）とも同様の結果であった。

「友人」の領域に対する、現在の重要度、満足度が共に最も高いという結果から、大学生活や青年期における友人の存在は、彼らのQOLを考えるうえで、重要な領域になりうることを示唆している。またこの結果は、内閣府（2004）の調査の「友人関係に満足を感じている青年は98.1%である」との結果を支持していた。

「住居」の満足度が高いという結果は、大学生になり、一人暮らしを始めて、自由を手に入れた、自分の好きなようにできる空間を手に入れたという意識が存在する可能性が示唆された。あるいは、大学進学以前に家族との同居に関して満足度の低かった者が、大学進学を機に一人暮らしを選択し、そうでない者は同居を継続した結果である、という可能性も考えられる。

「外見」「自信」「自立」など、個人を形成する要素に関する領域においては満足度が低かった。これは、社会人対象の大木他（1998）とは異なり、大学生対象の大木（1999）と一致していた。これらの領域における満足度の低さは大学生独自のものであるといえよう。Erikson（1959 小此木啓吾訳 1973）が述べている、アイデンティティ拡散の危機に直面するといわれる大学生の時期は、アイデンティティ確立のために模索している時期である。アイデンティティとは、自分が自分であるという自覚のことであり、自分自身が時間的に連続しているという自覚と、他者からもそのようなものとみなされているという感覚が統合されたものである。青年期に作り上げるこの自分が自分であるという感覚、つまりアイデンティティは、アイデンティティ拡散という危機に直面して問題になるものであり、拡散を克服してアイデンティティが獲得できる。そのような心理的葛藤がこれらの領域に関する満足度が低いという結果につながった可能性がある。

性差を検討したところ、「自信」の領域では、男性よりも女性の方が満足度が低かった。この結果は、山本（2005）の「適応的な個人志向性の傾向が強いのは男性性タイプである」「男性は早くから適応的自己を確立できる」という指摘とも一致するものである。個に対する意識が強く、さらにそれを肯定的に捉えることが「自信」につながるのであろう。また、「男性は自信を持つべきである」との日本の文化におけるジェンダーステレオタイプの影響によるものである可能性もある。

また、「両親・兄弟」「住居」「子ども」「隣近所」など、近しい他者関係に関する領域では女性

の方が満足度が高く、山本（2005）の「女性の方が社会性傾向が強い」との指摘と一致し、女性のソーシャルスキルの高さが伺える。ただし、「子ども」の結果に関しては、「いない」ことに満足している可能性がある。大学生の時期の女性にとって、子どもができることは人生そのものを左右してしまう。「仕事」や「自立」の将来における重要度が高いことからそのことを示唆していると言えよう。

(3) 将来の重要度

将来の重要度の結果は、現在の重要度の結果と類似していた。

将来の重要度に関しては、「学習」「インターネット」「創造性」などのより現実的な目標として設定されやすい領域において、男性の方が有意に高かった。成果が見えやすく、実感されやすい領域は、男性の方が将来重要視している。また、「友人」「愛情」「両親・兄弟」など非常に近い対人関係に関する領域では、女性の方が有意に高かった。

「宗教」に関しては、男性が将来において、重要度が高かった。「家を継ぐ」という言葉は日本の文化においては主に男性に使われるものであり、男女平等が世間で叫ばれるようになり久しいが、未だにそのような考えが人々の心根に潜んでいる可能性を示した。また、「外見」の領域に関しては、現在の重要度、将来の重要度共に女性が重要視しており、「日本では暗黙のうちに女性には外見を求める伝統的な土壌があり、女性の方が外見の美しさの追及に熱心である。」（森, 2002）との指摘を支持する結果となった。現代女性の瘦身願望や無理なダイエットをしてしまうという現象も、このような考えに基づいているのかもしれない。

「仕事（アルバイト）」「自立」の領域が将来において有意に高い結果となったのは、現在は大学生としての生活を送っているが、将来は社会に出て職業人としての生活を送ることになるという心理によるものであると考えられる。この結果は、大学生の将来目標に関しては「職業」が最も多かったとする都築（2001）の結果を支持した。一方で、就職活動の長期化、早期化、大学院進学率の高まりによって、卒業を学生生活の終点ととらえず、また、定職に就こうとしない学生たちがいる。このような学生にとって、卒業することや社会に出ることが、人生の節目となっていない（鶴田, 2002）、との指摘がある。しかし、本研究においては現在よりも将来において、その重要性を認識しているという傾向が強く示され、鶴田（2002）を支持しなかった。一部にそのような学生がおり、また増加傾向にあるという可能性はあるが、少なくとも、本研究の協力者に関しては該当しなかったと言える。

「恋人・配偶者」「子ども」「隣近所」などの、対人関係に関する領域が将来に重要度が高まったという傾向は、現在の生活においては実感がわかず、将来の自分像を考えたときに重要である、との考えが表れた結果であると考えられる。

(4) 重み付け満足度およびQOL得点

重み付け満足度は、重要度が高く満足度が高い場合は得点が高く、重要度が高く満足度が低いものが得点が低くなるため、重み付け満足度の低い群にQOLに関連する問題があると考えられる。そこで、重み付け満足度の低い群に注目すると、「自立」「自信」「外見」など、個人を構成する領域において満足度が低かった。つまり、「自立」「自信」「外見」などの満足度を上げることが、大学生のQOL向上を考える上で重要であることが示唆された。自分の内面、外面に対する自己評価の改善や、認知の変容がQOLの向上につながるのであれば、今後大学生に対しては、

自尊心を高めるようなアプローチの必要性がある。また、自分に対する肯定的な認識がQOL向上につながる可能性もあるだろう。

また、「自信」「外見」の領域において、男性よりも女性の方が重み付け満足度が低いという点にも注目する必要がある。「自信」に関しては、山本（2005）の「男性は早くから適応的の自己を確立できるが、女性は、時間がかかる。それは、女性は他者との関係性に配慮しつつ独自の自己を求める傾向にあること、また、生まれてから期待される役割によって関係性に配慮するようになるため、彼女たちは社会が求める女性らしさを受け入れ、その後自分らしさを求めることになる。」との指摘より、女性は自らのアイデンティティを確立させるための葛藤の最中である可能性がある。「外見」に関しては、女性は自己の身体に対して否定的な認知をすることや、身体的魅力が幸福感や自尊心と関連することがさまざまな研究により明らかになっている（例えば島,1988、金本・横沢・金本,2000など）。さらに青年期女子の、身体的自己に関する自己受容や劣等感や、望ましい自己に関する自己受容や劣等感と自己満足度とが強く関連している（富重・川畑,1999）との指摘もあり、「外見」に対する自己評価が青年期女子のQOLに深く関わることが考察される。

6. 本研究の問題点と今後の課題

本研究では調査協力者に女性が多かったため、全体の結果が女性の結果に影響を受けてしまった可能性がある。また、調査環境により調査協力者の大多数が人間科学関係の大学学部であったことも結果に影響しているかもしれない。大学生のQOLをアセスメントするためには、さまざまな大学、学部の生徒に対する調査を行う必要があるだろう。また、「将来の満足度」については、「将来」を特に規定したわけではなかったため、各個人によりその設定時期にずれが生じてしまった可能性がある。将来展望に関しては個人差や諸問題が存在すると思われるため、「将来」という記述に対しての配慮が必要であろう。

本研究の質問紙では、身体的側面に関する項目は「健康」のみであった。身体的に特に問題を抱えていない比較的健康であると考えられる大学生対象ではあったが、従来のQOL研究同様、身体機能や日常生活に即した項目が必要であると思われる。これは、本研究で質問した24項目以外で重要であると思われる項目を問う自由記述の欄で、「睡眠」や「食事」という回答が多かったことから伺える。また、「携帯電話」という回答が多かったことから、より時代背景や現実生活に即した項目について質問する必要があるだろう。

現在用いられているQOLアセスメントは、人生において何が重要であるかということが画一的に設定された状態のものが多く。しかし、人生に対する考え方や見方は各個人によって違うものであり、一方的な価値観の押し付けは危険である。今後QOLについて考える際には、人生の各年代や側面において何を重要視し、どれくらい満足しているのかということを中心にアセスメントを行うべきである。

本研究の対象者は大学生であったが、学生の時期は成長途中の段階であり、また人生の一時点であるとも言える。この時期は心理状態や価値観が大きく変動する時期であり、その分さまざまな問題を抱えていることも予想される。この時期からの、本人にとっての生理・社会・心理的なさまざまな側面についての健康的な日々の積み重ねが、人生全体のQOLの向上につながると思われる。大学生のメンタルヘルスについてアセスメントを行うことは、大学生の今後の人生にお

けるQOLを考える上でも意義があると言えよう。

7. 結論

本研究では、「現在の満足度」「現在の重要度」「将来の重要度」という観点から、大学生に特徴的なQOLに関連する要因、および性差を検討することを目的とした。大学生のQOLに関連する要因としては、親密な対人関係や、仲間、外集団との関わりに関する領域が挙げられた。また、個人を構成する領域において満足度が低く、これらの領域の満足度を上げることが、大学生のQOL向上を考える上で重要であることが示唆された。今後大学生に対しては、自尊心を高めるようなアプローチや、自分に対する肯定的な認識がQOL向上につながる可能性があると思われる。

引用文献

- Erikson,E.H. (1959). *Identity and the life cycle* : selected papers. New York : International Universities Press.
(エリク・H.エリクソン/小此木啓吾(訳)(編)(1973). 自我同一性:アイデンティティとライフ・サイクル 誠信書房)
- 平石賢二 (2004). 青年期における家族アイデンティティの発達とその背景——林・岡本論文に対するコメント—— 青年心理学研究, 16, pp.58-62.
- 今井道夫 (1999). 生命倫理学入門 産業図書株式会社
- 金本めぐみ・横沢民男・金本益男 (2000). 青年期における身体と自己の相互認知に関する研究上智大学体育, 33, pp.35-42.
- 森陽子 (2002). 青年期と性 白井利明・都筑学・森陽子 やさしい青年心理学 有斐閣 pp.159-178.
- 永田勝太郎・姫野友美・岡本章寛・伊東充隆・釜野安昭・金子美恵・奥秋晟 (1989). QOL (Quality of Life) とその臨床評価 臨床医薬, 5 (2), pp.211-235.
- 内閣府政策総括室 (総合企画調整担当) (2004). 第7回世界青年意識調査結果概要速報 2004年1月 <<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/worldyouth7/pdf/top.html>> (2006年1月9日)
- 大木桃代・山内真佐子・織田正美 (1998). 日常生活におけるQOL (Quality of Life) に影響を及ぼす要因の検討 早稲田心理学年報, 30 (2), pp.79-90.
- 大木桃代 (1999). 大学生の日常生活におけるQOLの検討 (1) ——生活領域の重要度と満足度—— 日本教育心理学会総会発表論文集, 41 p.340.
- 柴田博 (1996). 高齢者のQuality of life (QOL) 日本公衛誌, 43 (11), pp.941-945.
- 島久洋 (1988). 青年期の容姿と適応感 青年心理学研究, 2, pp.12-25.
- 田崎美弥子・中根允文 (1997). WHO/QOL-26 手引 金子書房
- 富重健一・川畑佳奈子 (1999). 青年期男子・女子の身体満足度と劣等感・自己受容感の関連 日本教育心理学会総会発表論文集, 41, 385.
- 都筑学 (2001). 大学生の進路選択と時間的展望:縦断的調査データの分析 教育学論集, 43, pp.95-124.
- 鶴田和美 (2002). 大学生のアイデンティティ形成の問題 臨床心理学, 2 (6), pp.725-730.
- 山本雅代 (2005). 青年期における性役割タイプと適応について 仁愛大学研究紀要, 3, pp.39-46.

謝辞: 本論文の作成にあたり、ご回答くださった学生の皆様、質問紙配布にご協力くださった淑徳大学総合福祉学部木村登紀子教授、同じく小川恵助教授、考察の際に助言をいただいた文教大学大学院人間科学研究科人間科学専攻修士1年および大木ゼミの皆様にご感謝申し上げます。

[資料1]

この調査は、それぞれの項目に対する、あなた自身の「現在の重要度」「現在の満足度」「将来の重要度」を評価していただくものです。あなたには直接関係のない質問があるかもしれませんが、全ての質問に回答してください。この調査はあくまであなたの感じかたや意見をお尋ねするものですので、正しい答えや間違った回答というのはありません。

重要とは、あなたの生活のその部分がどれだけあなたの幸福に寄与するかを意味しています。「重要でない」(1)、「重要」(2)、「非常に重要」(3)の3つの選択肢の中から1つ選んで、あなたの重要度を示してください。

満足とは、生活のその部分にあなたの欲求や目的、願望がどの程度満たされているかを意味しています。「非常に不満」(1)から「非常に満足」(7)までの7つの選択肢の中から1つ選んで、あなたの満足度を示してください。

次のページから質問が始まります。以下の例を参考に各々の質問についてあなたに最もよくあてはまる数字を○で囲んでください。

[例]

「大学」が現在の自分にとって「非常に重要」と考えている場合

(1)「大学」は現在のあなたの幸福にとってどのくらい重要ですか？

1 2 3
重要でない 重要 非常に重要

現在の「大学」に「やや満足している」場合

(2)あなたは現在の自分の「大学」についてどれくらい満足していますか？

1 2 3 4 5 6 7
非常に やや 少し どちら 少し やや 非常に
不満 不満 不満 でもない 満足 満足 満足

「大学」が将来の自分にとって「重要」と考えている場合

(3)「大学」は将来のあなたの幸福にとってどのくらい重要になると思いますか？

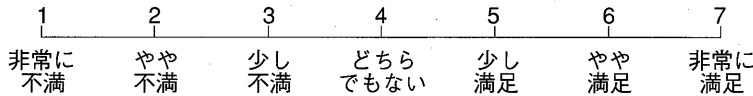
1 2 3
重要でない 重要 非常に重要

1. 「健康」とは、心身の調子がよく、病気や痛みがないことです。

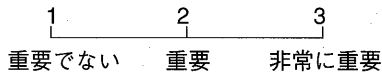
(1)「健康」は現在のあなたの幸福にとってどのくらい重要ですか？

1 2 3
重要でない 重要 非常に重要

(2) あなたは現在の自分の「健康」についてどれくらい満足していますか？



(3) 「健康」は将来のあなたの幸福にとってどのくらい重要になるとおもいますか？



(以下、質問の番号と定義及び注意書きのみ記す。それぞれの定義が質問の前に提示されている。

(1) では現在の重要度を、(2) では現在の満足度を、(3) では将来の重要度を尋ねている。)

2. 「自信」とは、あなたの長所や短所、成功や失敗、問題を処理する能力に関して、自分自身を気に入っていたり、尊敬していることです。
3. 「価値観」とは、何が人生で最も重要であるか、どう生きるべきかについてのあなたの見方です。この中には、人生における目標や、あなたが正しいあるいは間違っていると思うこと、そしてあなたの考える人生の目的や意味が含まれています。
4. 「財産」とは、あなたが所有している金銭やもの（車やパソコンなど）や家などのことです。
5. 「仕事（アルバイト）」とは、働くことです。あなたは職場で働いていた、家で家族の世話をやいていた、あるいはするかもしれません。仕事（アルバイト）には、仕事上での任務・業績・やりがい・収入が含まれています。
6. 「仕事（アルバイト）仲間」とは、職場において、共通の課題や目標を持っている人々のことです。例えば、職場の同僚、上司、部下のことです。
7. 「遊び」とは、余暇にリラックスしたり、楽しんだり、リフレッシュしたりすることです。例えば、映画を見たり、友人を訪ねたり、スポーツやショッピングのような趣味に精を出すことです。
8. 「学習」とは、新しい知識や技術、態度を習得したり、あなたが興味を持っていることについての情報を得ることです。
9. 「創造性」とは、新しいものを作り出したり、新しいことを考え出すことです。これには、芸術作品を作ったり、科学的な発明・発見をすることだけではなく、日常生活や仕事上で今までにない能率的な方法を考察することも含まれます。
10. 「援助」とは、困っている人を助けたり、地域がより住みよい場所になるように手助けすることです。援助はあなた一人で行うこともあれば、地域組織、サークル、会社などの団体で行うこともあります。援助にはボランティアや寄付などがあります。援助はあなたの友人や親戚でない人々を助けることを意味します。
11. 「愛情」とは、恋愛・夫婦・親子などの人間関係に関わる感情のことです。愛情には普通、性的な感情や、人を愛したり、気にかけて、理解したりという感情も含まれます。
12. 「友人」とは、つきあっている人々で、一緒に遊んだり、個人的な問題について話したり、お互いに助け合ったりしている人々のことです。あなたに友人がいなくても質問にお答えください。

(2) もしあなたに友人がいなければ、友人がいなかったことについて、あなたがどれくらい満足を感じているかお答えください。

13. 「恋人・配偶者」とは、親密な関係にある、特定のパートナーのことです。あなたに恋人・

配偶者がいなくても質問にお答えください。

(2) もしあなたに恋人・配偶者がいなければ、恋人・配偶者がいないことについて、あなたがどれくらい満足を感じているかお答えください。

14. 「子ども」とは、あなた自身の息子や娘のことです。あなたがどの程度自分の子どもとうまくやっているかを考えてお答えください。あなたに子どもがいなくても、質問にお答えください。

(2) あなたに子どもがいなければ、子どもがいなかったことについて、あなたがどれくらい満足を感じているかお答えください。

15. 「両親・兄弟」とは、あなた自身の両親や兄弟姉妹のことです。あなたが彼らとどのくらいうまくやっているかをお考え下さい。あなたに現在生きている両親・兄弟がいなくてもお答えください。

(2) あなたに両親・兄弟がいなければ、両親がいなかったことについて、あなたがどれくらい満足を感じているかお答えください。

16. 「親戚」とは、あなたの祖父母、叔父、叔母、姻戚などのことです。あなたが彼らとどのくらいうまくやっているかをお考え下さい。あなたに現在生きている親戚がいなくてもお答えください。

(2) あなたに親戚がいなければ、親戚がいなかったことについて、あなたがどれくらい満足を感じているかお答えください。

17. 「住居」とは、あなたの住んでいる家や屋敷のことです。その快適さや、あるいは家賃や住宅ローンの支払いについてお考え下さい。

18. 「隣近所」とは、あなたの家の周りの区域やそこに住む人々です。それがどのくらい快適に思えるか、あなたがその人々にどのくらい好感を持っているかお考え下さい。

19. 「地域」とは、あなたの住んでいる市や町、地方です。それは単なる近所ではありません。その地域の住みやすさの程度、犯罪件数やあなたがその人々にどのくらい好感を持っているか、ということが含まれています。また、公園やコンサート、スポーツイベントの有無や、物価、行政、学校、公害の状況も含まれます。

20. 「国家」とは、あなたが住んでいる国のことです。その国の国際的な役割や貢献も含まれます。

21. 「宗教」とは、神聖なものを信仰することです。もしあなたが特定の宗教を信仰していなくてもお答えください。

(2) もしあなたが特定の宗教を信仰していなければ、そのことについてどれくらい満足しているかお答えください。

22. 「自立」とは、経済的、心理的に他に依存せず、独立していることです。

23. 「外見」とは、あなた自身の見た目のことです。外見には、ルックス、スタイル、ファッションなどが含まれます。

24. 「インターネット」とは、パソコンや携帯電話などのコンピュータで結ばれたネットワークの集合体のことです。この中には、インターネット上のさまざまなサービス、インターネットを利用するための環境なども含まれます。